

NPO 法人 環境生態工学研究所 活動報告

テーマ	三井物産環境基金『被災後の南三陸町沿岸における里海復興活動』 地域の特産品をつくる（商品開発）
実施日	平成 25 年 10 月 29 日（火）
参加者	南三陸町生活研究グループ めくもり工房の皆様（6 人）、 E-TEC 会員（2 人）

[2013.10.29 『被災後の南三陸町沿岸における里海復興活動』でこんにやく作りを体験してきました](#)

E-TEC では先の震災でとても大きな影響があった宮城県本吉郡南三陸町において、里海復興活動を実施しております。これは震災からの早期復興を進めるためにも、環境保全に役立つことを地域の皆様と一緒にを行う活動であり、『三井物産環境基金』の助成を受け、実施している事業です。

簡単に説明しますと、環境に良いことを考えながら得た産物（海の産物・山の産物）を組み合わせることで、地域の方々（海の方、山の方）と一緒に『おいしく健康に良い特産品を作ってしまうおう』という欲張りな企画でもあります。



本日の作業場所は町内にある『めくもり工房』です。海も山もすぐそばに感じられる（都会の人からは）非常に良いところにありますが、近くには仮設住宅があり、まだまだ震災復興はこれからとってしまいます。この工房は、南三陸町内の主婦の方たちが集まり、助成を得たり、少しずつ出資してつくった作業所です。建物の中には調理器具がありましたが、業務用の器具は高くて手に入らないとのことから、皆さん工夫して使用していらっしゃいました。



今回の開発商品は『アカモク入りこんにゃく』です。アカモクはE-TECのHPによくできてきます。これは原料のこんにゃくいもです。参加者の方が3年かけて育てたそうです。



非常に科学的でおもしろいこんにゃく作りですが、秘密がいっぱいなので写真には示しません。なんてたって、『あんべ』(下記に示します)ですから……。つぶして→水を入れて→こねて→寝かして→ゆでて…といった感じです。力とスピード、集中も必要です。



役に立たないE-TEC会員は、『お湯の計量係』という大役を仰せつかりました。



出来上がったアカモク入りこんにゃくです。はっきり言って、プロの味です。お世辞でなくおいしいです。ぬくもり工房さんでは他にも様々な商品を開発しています。



商品開発ですから良い商品を作り出さなくてははいけません。できるだけ、皆で話し合い記録に残そうとしましたが、名前は『あんべ』で製造なさっているのです。『あんべ』とは共通語では『塩梅（あんばい）』のことです。私には『じえじえじえ』よりも、難しい言葉に感じました。

ぬくもり工房の皆様は、震災復興と環境保全を楽しみながら進めていこうとする前向きな皆様に感じました。でも、休憩中に震災の話をしたときには、それぞれの方がそれぞれの物語をお持ちであり、「この工房に来て作業をしているとつらいことを考えずにすむよ」と聞いた時に集団作業やコミュニティーの重要性を感じる事ができました。

なお、ぬくもり工房様ではいろいろな食品を扱っています。こんにゃく、みそ、つけもの、かまぼこ・・・どれも普通の商品ではございません。おいしく、体に良く、環境に良い商品です。興味をお持ちになったら、下記までお問い合わせください。

[ぬくもり工房（担当：西条さん） TEL090-3643-2842](tel:090-3643-2842)

（文責：大谷）